

八重山 JC [沖縄]

他団体とも交流を深め、地域の人材として活躍する

日本最南端のLOMである八重山JCは、米国民政府(USCAR)統治下であった1962年、沖縄で那覇、宮古に継ぐ3番目のLOMとして設立されました。72年の日本復帰までは、59年に設立された沖縄青年商工会議所(現那覇JC)とともに八重山青年商工会議所(当時米国民政府統治下では、政治結社との相違を明確にするために商工の記載が必要でした)はNOMを構成するLOMでした。

昨年創立45周年を迎え、卒業生も昨年までで総勢119名になり、現役会員数の2倍強となりました。記念式典では初代理事長より現在に至る数々の事業紹介などもあり、地域におけるJCの位置づけ、役割を改めて感じたものでした。数年前まではOBシニア会もあり、LOMでの卒業式の式次第にはOBシニア会入会式がありましたがいまのまにか入会式もなくなり、いま

はその組織自体は機能していません。しかしながら現役の要請があれば、事業に参加・協力はもちろんのこと、シニアのご子息を入会させたりと、2代目メンバーも多くなってきました。シニアの多くは、行政における諮問会議関連、商工会会長、法人会会長などの各種経済団体、市議会議員など重要な役職を歴任することも多く、地域の人材として活躍されています。また、地域の特徴的な事例であ

りますが、RC、LC、JC3団体が年度持ち回りで幹事役を務め、懇親会などで互いに交流を深め、JCの現役がRC例会で講演したりと、互いの地域事業に参加し合うという助け合いの心「ゆいまる」があります。それも、RC、LCの歴代会長、会員の多くにJCシニアが多いからでしょう。

そのようなシニアと現役との交流が盛んなこともあり、地域マスコミにシニアの活躍や現役の事業が報道されることも多く、地域でのJC認知度は相当なものがあ、地域に根付いた団体として期待されています。

私が現役の頃、シニアに「君らのやること、発言などが時々生意気と世間から思われるのは仕方ない。でもそんなことはあまり重要ではない。私たちシニアは、君たちが一生懸命やった後、上手くいけば一緒に喜ぶし、上手くいかなければもう一度頑張ろうと言うよ」と言われたことがあります。シニアの経験があるから、現役は頑張れる。そんな勇気をもたらした気がしたものでした。今後ともしっかりと現役のサポートをしていきたいと思っています。

日本JCシニア・クラブ
沖縄地区担当世話人 大浜一郎



(上から)07年度新春パーティー/RC、LC会長と/現役メンバーと/歴代理事長を囲んで